

高校生の進路意識と保護者の関与について

永田純一，高地秀明，杉原敏彦（広島大学）

高校 1・2 年の生徒とその保護者に対し，卒業後の希望する進路や進学・就職に対する期待感と不安感，さらに保護者との関係に関するアンケート調査を実施した。生徒と保護者から得られた回答について，生徒のみ，保護者のみの分析に加えて，「生徒」と「保護者」というペアをもとにした分析を行った。その結果，進路に不安を感じている生徒は保護者と成績についてよく話をすること，保護者は生徒と進路について具体的な話をする中で情報収集意欲が高められる可能性が示唆された。

1 はじめに

現代の高校生は，非常に多様な高等教育の分野の中からその進路を選択する必要がある，決定のための十分な情報を得る重要性が一層増している。高等学校教員，保護者，友人，あるいは進路情報誌，インターネット等広範な環境から入手した情報をもとに，進路選択の判断を行っている。

高校生がどのような情報源からどのような進路選択を行っているのか，そのプロセスを把握することは，中等教育と高等教育の接続の観点から大変重要なテーマであり，長い年月にわたり研究対象となっており，入試制度との関連や進路選択の意思決定プロセスに他者が与える影響について，これまでに詳細に検討されている（日本教育学会入試制度研究委員会編，1983；「高校生の進路についての調査」ワーキンググループ，2007；楠見ほか，2008；中村高康編，2010；東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse教育研究開発センター共同研究，2009，2010；全国高等学校PTA連合会・リクルート，2011）。また，いわゆる社会階層研究としての学歴の世代間移動については，荻谷（2001），あるいは吉川（2006）等において我が国特有の構造が分析されており，片岡（1990）では，祖父の世代までも

含めた三世代間の分析がなされている。

我々はこれまでに，高校生の進路選択に関連して，本学への入学者や入試説明会等に参加した保護者に対し，進路意識や情報入手行動等に関するアンケート調査を行ってきた（広島大学入学センター，2009；永田・高地・杉原，2012）。入学者に関する調査では，進路選択において影響を受けた他者が，入学する学部・学科等により異なっていること（広島大学入学センター，2009），説明会等における保護者対象の調査からは，多くの保護者が進路について子どもとよく話し合っている状況があることが確認されている（永田・高地・杉原，2012）。

本研究では，先行研究と同様に，高校生の進路選択における意思決定プロセスを把握することを目的としているが，特に保護者の役割に着目する。また，現在の保護者世代の高等教育進学率は，一世代前とは異なっていることから学歴に対する価値観も変化していると思われ，保護者の意識や価値観の調査も視野に入れている。しかし，保護者の役割を明らかにする為には，生徒（子）自身及び保護者自身の意識，さらにその関係を把握する必要がある。今回は，我々のこれまでの調査や先行研究と異なり，生徒（子）とその保護者のペア（対応のある）に基づいた調査を行っ

た。対象とした学年は、高校1年及び2年であり、これから進路を選択していく段階にある高校生と保護者について、先行研究の視点に加えて、より幅広い詳細な分析が可能と考えられる。得られた結果と今後の課題について報告する。

2 高校生とその保護者を対象としたアンケート調査

2.1 調査の実施内容について

広島県の公立高校2校の1・2年生の生徒及びその保護者を対象に、高校卒業後の進路に関する意識等について、無記名式のアンケート調査を実施した（2012年3～4月）。A校は普通科のみの1学年約320名の規模であり、B校は普通科と専門学科が設置されており、1学年約200名である。両校とも大学・短期大学進学率（国公立）は90%以上であり、進学状況からいえば中堅校に位置する。回収数は2校の合計で827人（生徒）、433人（保護者）であり、生徒の学年の内訳は、1年生が314人、2年生が506人である（学年不明者が7人）。性別は、男子357人、女子453人、である。また、保護者の属性は、父親41人（子：1年生=30人、2年生=11人）、母親389人（子：1年生=223人、2年生=155人、学年不明=11人）、不明3人、である。

生徒の回答は、ホームルームの時間に教室で記入後回収し、保護者の回答は、生徒が持ち帰ったアンケート票に保護者が記入後、本学宛に郵送する方法をとった。生徒の回収率は高く、全体で98%であったが、保護者の回収率は52%程度であった。

質問項目は、生徒が34項目、保護者が28項目である。質問の内容は、大きく分けると、（1）回答者の属性、（2）希望する進路（大学等、就職、その他）、（3）進路を考えたときの行動、（4）進路を考えたときの意識、である。これらの多くは、全国高

等学校PTA連合会・リクルート（2012）において使用されたものを用いた。また、これに加えて、いくつか新たに設定した質問項目も含まれている。

2.2 生徒の「進路に関する意識」調査結果

多くの質問項目の中から、ここでは特に、進路を考えたときの行動や意識に関連した設問である「保護者と話をする内容（A～L）」「進路について考えたときの気持ち（M～T）」について取り上げる。

表1 生徒を対象としたアンケート調査の質問項目

「保護者と話をする内容」	
A	高校卒業後の具体的な進路について
B	将来どんな職業に就きたいか
C	現在の成績について
D	将来の自分の夢
E	将来どんな生活をしたいか
F	保護者の（現在の）仕事の話
G	将来どんな生き方をしたいか
H	経済や企業の動き
I	進学費用について
J	入試（大学・短大・専門学校）の動向
K	保護者の学生時代の話
L	保護者の進路選択時の話
「進路のことを考える時の気持ち」	
M	自分の可能性が広がるようで、楽しい
N	自分がどうなってしまうのか不安になる
O	自分の未来を考えるとわくわくする
P	考えること自体がめんどう
Q	進路のことよりもっと考えたいことがある
R	今が楽しければいいので先のことは考えない
S	自分の将来にそんなにいいことはない、考えてもつまらない
T	進路のことはわからない

前述したとおり、全国高等学校PTA連合会・リクルート調べ（2012）では、高校生と保護者の進路意識について、多くの側面の継続した調査がなされているが、このうち、「進路を考えるときの気持ち」について、「『楽しい』と回答した高校生のほぼ半数が『将来の自分の夢』について会話をしている」ことが指摘されている（全国高等学校PTA連合会・リクルート調べ、2012: 27）。我々の調査においても、同様の質問を行っているので、以下にその結果を示したい。

表1の「保護者とよく話をする内容」については、「よく話をする（4）」「たまに話をする（3）」「あまり話をしない（2）」「まったく話をしない（1）」から1つ回答を求め、「進路のことを考える時の気持ち」については、「よくあてはまる（4）」「ややあてはまる（3）」「あまりあてはまらない（2）」「まったくあてはまらない

（1）」から1つ回答を求めた。（ ）は得点化された値を示している。この得点化された値を用いて、項目A～LとM～Tとの相関係数を算出した（表2）。項目P～Tについては、項目A～Lとはほとんど相関がみられなかったため、表2からは除外し、M、N、Oのみ取り上げた。表2において、二重下線は相関係数（r）が0.3より大きい値、下線は0.2～0.3の範囲の値である。この表から、進路のことを考える時の気持ちが「自分の可能性が広がるようで楽しい（M）」の項目について、比較的rが大きいのは、「将来の自分の夢（D）」、「将来どんな生活をしたいか（E）」「保護者の仕事の話」であることがわかる。つまり、生徒は自分の進路について肯定的な気持ちをもっている場合、単に具体的な進路先の大学や学科等専門分野について話をするだけでなく、自分の「夢」や「将来の生活」「保護者の仕事」についてよく保護者と話をしていると考えられる。このことは、全国高等学校PTA連合会・リクルート

表2 質問項目間の相関係数（r）

	M	N	O
(m, sd)	(3.20,.78)	(2.95,.82)	(2.70,.89)
A(2.99,.77)	<u>.28**</u>	.16**	<u>.29**</u>
B(2.98,.80)	<u>.27**</u>	.09**	<u>.29**</u>
C(2.94,.78)	.15**	<u>.22**</u>	.18**
D(2.78,.84)	<u>.33**</u>	.07**	<u>.35**</u>
E(2.61,.84)	<u>.31**</u>	.04	<u>.35**</u>
F(2.50,.85)	<u>.29**</u>	.06	<u>.32**</u>
G(2.51,.89)	.18**	.07**	<u>.21**</u>
H(2.18,.84)	.21**	.06	.17**
I(2.44,.89)	.13**	.15**	.08**
J(2.17,.84)	.19**	.11**	.13**
K(2.38,.88)	.18	.07	<u>.20**</u>
L(2.03,.84)	<u>.21**</u>	.05	.19**

** 1%水準で有意

m：平均値， sd：標準偏差

（2012）の結果と同様の傾向が、今回の調査においても示された、ということである。一方、「自分がどうなってしまうのか不安になる（N）」については、rがそれほど大きな値を示す項目は見いだされていないが、「現在の成績（C）」との値が他の項目と比べた場合、比較的大きくなっている。生徒は、進路に対する不安感が強い程、保護者と「現在の成績」についてよく話をしているようである。

2.3 保護者の「進路に関する意識」調査結果

生徒と同様に、アンケート対象校生徒の保護者に対して「進路に関する意識」のアンケート調査を行った。

保護者対象の質問項目のうち、本節では、保護者の進路に対する行動・態度である

「(a)詳しく情報収集したい」「(b)具体的にアドバイスしたい」と「(c)～(g)進路に対する価値観」との関係について触れたい。

ここでの興味は、保護者の具体的な進路に関する情報収集の行動や態度は、いったいどのような考え方から生じているのか、である。

表 3 は、質問項目 (a)・(b) と質問項目 (c)～(g) との相関係数を示している。前節の生徒の場合と同様に、質問項目への回答は得点化されており、(a)・(b) では「とてもそう思う (4)」「ややそう思う (3)」「あまりそう思わない (2)」「全くそう思わない (1)」であり、(c)～(g) では「よ

表 3 保護者を対象としたアンケート調査の質問項目間の相関係数 (r)

(m, sd)	(a) 詳しく情報収集したい (3.32,.66)	(b) 具体的にアドバイスしたい (2.84,.75)
(c) 自分の個性や能力を生かせる学校に進学させたい (3.70,.49)	.27**	.14**
(d) 社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学させたい (3.69,.51)	.29**	.18**
(e) 資格を取得できる学校に進学させたい (3.52,.63)	.25**	.15**
(f) 同じことを学ぶなら、専門学校より大学・短大に進学させたい (3.26,.84)	.19**	.20**
(g) できるだけ知名度の高い大学に進学させたい (2.60,.79)	.19**	.21

** 1% 水準で有意

m : 平均値, sd : 標準偏差

くあてはまる (4)」「ややあてはまる (3)」「あまりあてはまらない (2)」「全くあてはまらない (1)」である。

これをみると、「(a) 詳しく情報収集したい」の項目と、弱いが一応の相関を示しているのは、「(c) 自分の個性や能力を生かせる学校に進学させたい」「(d) 社会で役立つような知識・技術を身につけられる学校に進学させたい」「(e) 資格を取得できる学校に進学させたい」の項目であった。また、「(b) 具体的にアドバイスしたい」については、「(f) 同じことを学ぶなら、専門学校より大学・短大に進学させたい」「(g) できるだけ知名度の高い大学に進学させたい」という項目であった。この場合、大学などの内容に関する情報というよりも、社会的な評価について、子どもにより多くの情報を与えたい、ということがその要因になっているのではないだろうか。一方、表には示していないが、「できるだけ難易度が高い大学に進学させたい」「受験であまり苦勞せずに入れる学校に進学させたい」や「お子様の考えを尊重したい」といった質問も保護者に尋ねている。これらの項目では、(a) や (b) の項目との相関係数は小さな値となった。

2.4 「進路に関する意識」における高校生とその保護者の関係

子どもと保護者との意識のずれ、あるいは一致していることについては、多くの事項が考えられる。今回のアンケートでは、生徒とその保護者とのペアの関係が把握可能な調査方法をとっているため、一例として、2.2 節と 2.3 節でそれぞれみた項目について、このペアをもとにした場合、生徒と保護者の間において、どのような関係があるか、を調べてみたい。

生徒の「進路のことを考える時の気持ち」と保護者の行動との関係はどのようになって

表4 生徒（「不安(N)」）と保護者（「詳しく情報収集したい(a)」）のクロス集計表

(生徒)	(保護者) 情報収集の意欲		合計
	あり	なし	
不安あり	290(91.2%)	28(8.8%)	318
不安なし	84(87.5%)	12(12.5%)	96

χ^2 検定：非有意

いるのであろうか。保護者の行動は、生徒の気持ちと連動している部分はないのだろうか。

表4は、「進路のことを考える時の気持ち」について、『不安』であるかどうかと、その保護者（親）が、実際に情報収集に意欲的かどうかについて、433名の保護者とその生徒の回答を集計し、生徒と保護者の回答の組合せに基づきグループ化し集計を行ったものである。

この表の値に対して χ^2 検定を行ったところ非有意となった($\chi^2 = 1.153$, n.s.)。生徒の不安感とその保護者の情報収集意欲とについては、明確な関連性は示されなかった。さらに、進路について考える時の気持ちが『楽しい』についても同様の分析を行ったが、こちらも情報収集への意欲に対しては非有意となった($\chi^2 = 1.263$, n.s.)。

一方、生徒(子)が「保護者とよく話をする内容」(表1)のうち、「(A) 高校卒業後の具体的な進路」と保護者の「(a) 詳しく情報収集したい」との相関係数を求めると、 $r=0.126$ ($p<0.05$) となり、他の質問項目のrの値よりも大きくなっている(『楽しい(M)』: $r=0.005$, 『不安(N)』: $r=0.009$)。したがって、2.3節で示されたとおり、保護者の情報収集意欲は、生徒の気持ち(楽しさ、不安)と関係しているというよりも、具体的な進路について生徒(子)と話が進んでいくなかで生まれているのではな

いか、と推測される。

3 まとめと今後の課題

今回、我々は、「進路に関する意識」についてのアンケート調査を、公立高校の生徒とその保護者に対して同時に実施した。対象となった高校の数は2校と少数であるが、サンプルサイズとしては生徒、保護者とも十分な大きさである。

2.2節で述べたとおり、生徒から得られた回答では、進路について考える時に、楽しく感じる場合は、自分の夢を保護者とよく話す傾向があること、また、不安に感じる場合には、成績に対する不安要因が大きい傾向があることがわかった。

2.3節では、保護者から得られた回答をもとに、行動特性の一側面の検討を行った。得られた相関係数の値は、いずれも大きな値ではないが、保護者が「詳しく情報収集したい」のは、子の個性にあった学校、社会で役立つ知識・技術が身につく学校、資格を取得できる学校、といった学校への進学を希望する場合である傾向がみられた。

さらに、2.4節では、保護者の進路に関する情報収集の行動意欲と、その子(生徒)の意識や行動との関係について検討を行った。今回の分析では、明確な結論は得られていないが、進路について具体的な話がすすむことで、保護者の情報収集意欲も高まる可能性が示唆された。より明確な結論を得るためには、例えば、保護者についても、なぜ、そのような行動をとりたいのか、その理由について問うような質問内容が望ましい。今後、今回得られた結果を踏まえて、より細かな質問内容によるアンケートの再調査を行う必要があると思われる。

今回の分析結果から傾向として得られた成績と進路に対する『不安感』の関係は、その内容をさらに詳しく分析することで、不安感の質的内容を把握することが重要であると考

えられる。一方、生徒（子）の進路に関する保護者の行動は、生徒（子）と具体的な進路について話をする中で強化されるようである。我々の広報活動においても、高校生や保護者の進路に対する考え方や志向等に応じた具体的な情報提供が求められる。

付記

本研究はJSPS科研費 23653268 の助成を受けたものです。

謝辞

アンケートに協力いただいた高等学校の関係者の皆様に心より感謝いたします。

参考文献

- 広島大学入学センター (2009). 『入学者選抜に関する調査研究報告書』広島大学入学センター.
- 荻谷剛彦 (2001). 『階層化日本と教育危機—不平等再生産から意欲格差社会へ』有信堂.
- 片岡栄美 (1990). 「三世代学歴移動の構造と変容」『現代日本の階層構造3 教育と社会移動』東京大学出版会, 57-83.
- 吉川 徹 (2006). 『学歴と格差・不平等—成熟する日本型学歴社会』東京大学出版.
- 「高校生の進路についての調査」ワーキンググループ (2007). 『高校生の進路追跡調査・第1次報告書』東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター.
- 楠見孝・栗山直子・齊藤貴浩・上市秀雄 (2008). 「進路意思決定における認知・感情過程」『キャリア教育研究』, 26, 3-17.
- 永田純一・高地秀明・杉原敏彦 (2012). 「大学志願者における保護者の進路支援意識と大学広報」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会 (第7回) 研究発表予稿集』, 97-102.
- 中村高康編 (2010). 『進路選択の過程と構造 - 高校入学から卒業までの量的・質的アプローチ』ミネルヴァ書房.
- 日本教育学会入試制度研究委員会編 (1983). 『大学入試制度の教育学的研究』, 東京大学出版会.
- 東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse 教育研究開発センター共同研究 (2009). 「都立高校生の生活・行動・意識に関する調査」.
- 東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse 教育研究開発センター共同研究 (2010). 「都立専門高校の生徒の学習と進路に関する調査」.
- 全国高等学校PTA連合会・リクルート (2012). 『第5回 高校生と保護者の進路に関する意識調査 2011』.